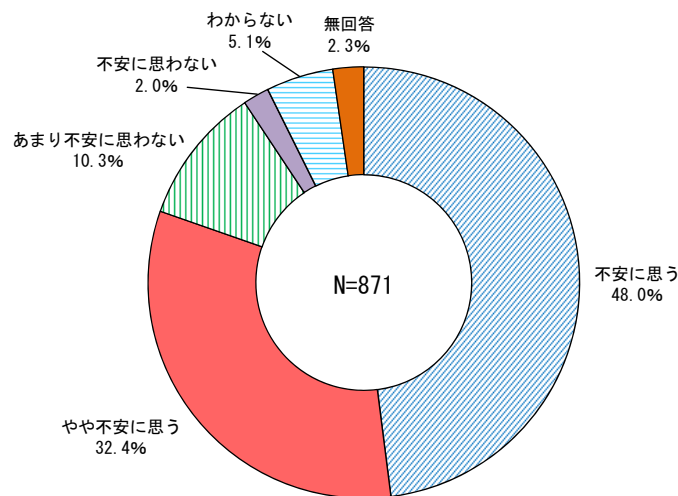


5 遺伝子組換え作物等について

問1 あなたは、遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性について、どのように思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「不安に思う」(48.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「やや不安に思う」(32.4%)、「あまり不安に思わない」(10.3%)の順となっている。

【圏域別】

「不安に思う」については、釧路・根室圏(58.3%)が最も割合が高く、次いで道北圏(53.9%)となっている。「やや不安に思う」については、十勝圏(43.2%)が最も割合が高く、次いで道南圏(33.7%)となっている。

【人口規模別】

「不安に思う」については、人口10万人未満の都市(51.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(49.8%)となっている。「やや不安に思う」については、町村部(36.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(34.8%)となっている。

【性別】

「不安に思う」については、男性42.0%、女性54.8%となっており、「やや不安に思う」については、男性35.3%、女性28.8%となっている。

【年代別】

「不安に思う」については、60～69歳(53.5%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(53.2%)となっている。「やや不安に思う」については、30～39歳(37.6%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(36.9%)となっている。

【職種別】

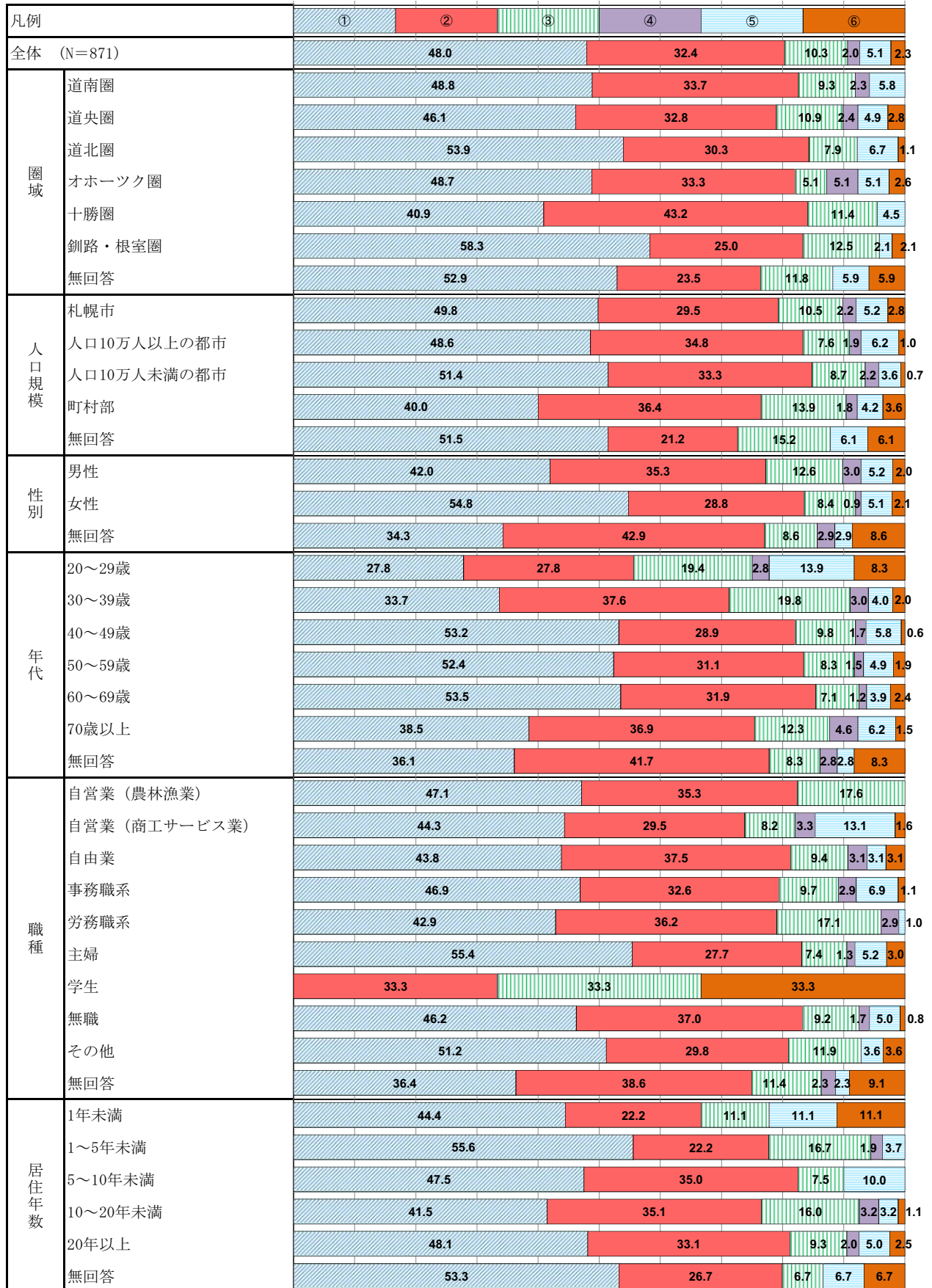
「不安に思う」については、主婦(55.4%)が最も割合が高く、次いでその他(51.2%)となっている。「やや不安に思う」については、自由業(37.5%)が最も割合が高く、次いで無職(37.0%)となっている。

【居住年数別】

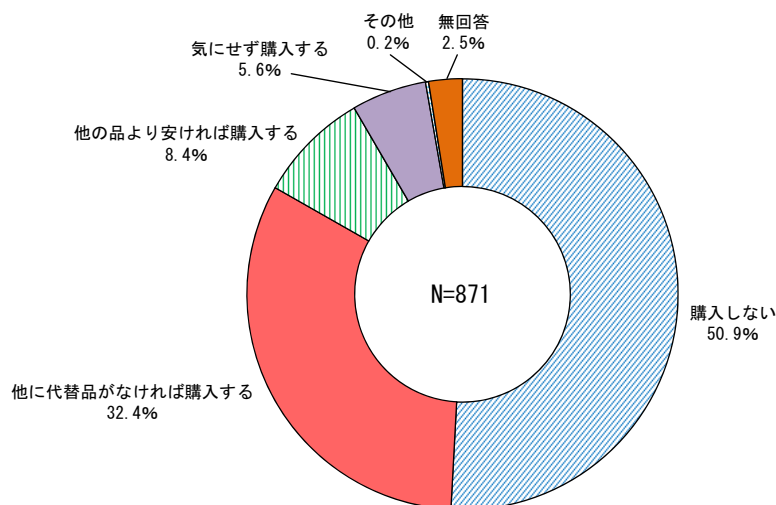
「不安に思う」については、1～5年未満(55.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(48.1%)となっている。「やや不安に思う」については、10～20年未満(35.1%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(35.0%)となっている。

①不安に思う ②やや不安に思う ③あまり不安に思わない ④不安に思わない
 ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 あなたは、購入しようとした作物及び加工食品に「遺伝子組換え」と表示されている場合、どのように対応しますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「購入しない」(50.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「他に代替品がなければ購入する」(32.4%)、「他の品より安ければ購入する」(8.4%)の順となっている。

【圏域別】

「購入しない」については、釧路・根室圏(62.5%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(56.4%)となっている。「他に代替品がなければ購入する」については、十勝圏(40.9%)が最も割合が高く、次いで道北圏(34.8%)となっている。

【人口規模別】

「購入しない」については、人口10万人以上の都市(53.3%)が最も割合が高く、次いで札幌市(52.6%)となっている。「他に代替品がなければ購入する」については、人口10万人未満の都市(34.8%)が最も割合が高く、次いで札幌市(32.6%)となっている。

【性別】

「購入しない」については、男性46.9%、女性54.5%となっており、「他に代替品がなければ購入する」については、男性32.8%、女性32.0%となっている。

【年代別】

「購入しない」については、60～69歳(57.5%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(53.9%)となっている。「他に代替品がなければ購入する」については、70歳以上(38.5%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(36.1%)となっている。

【職種別】

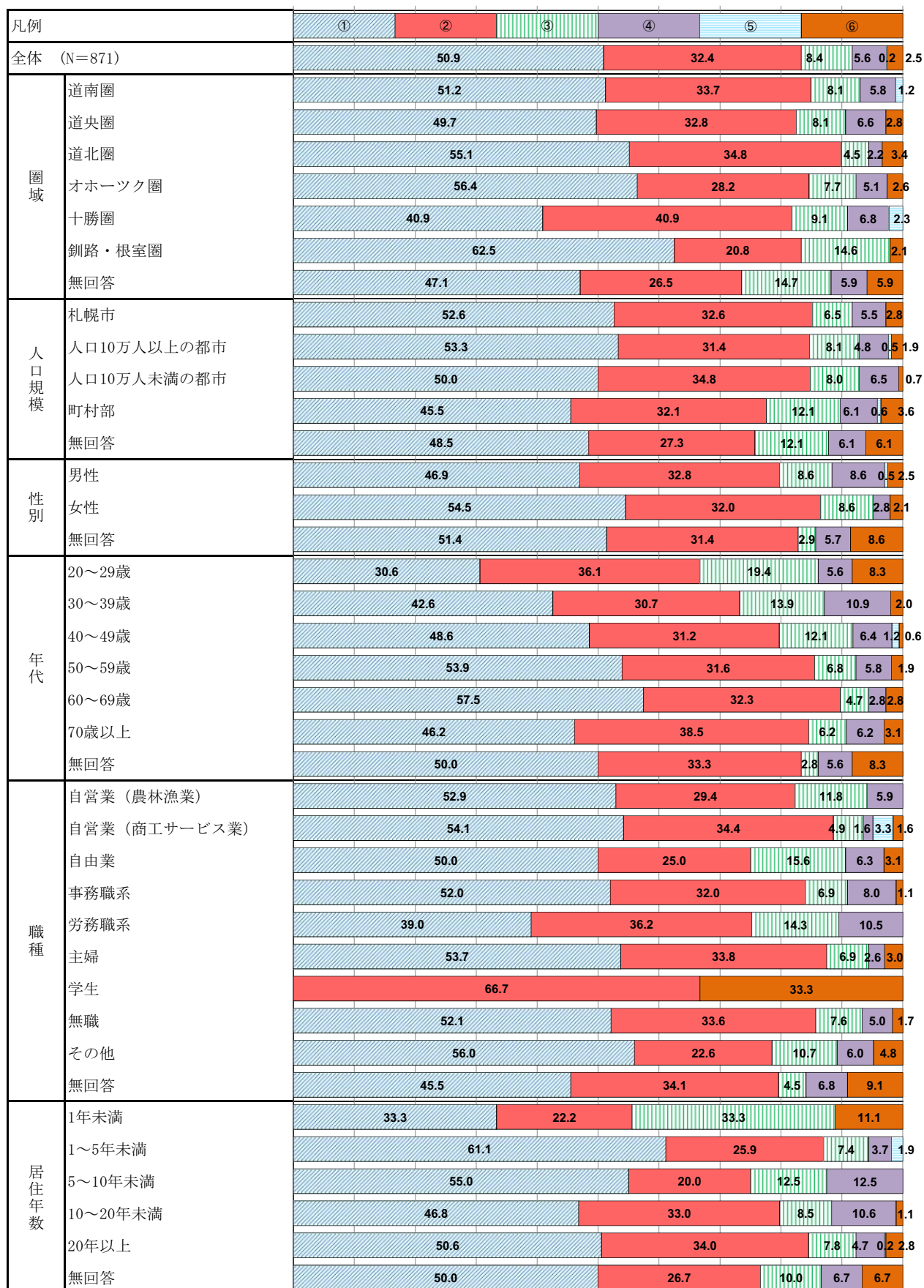
「購入しない」については、その他(56.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(54.1%)となっている。「他に代替品がなければ購入する」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで労務職系(36.2%)となっている。

【居住年数別】

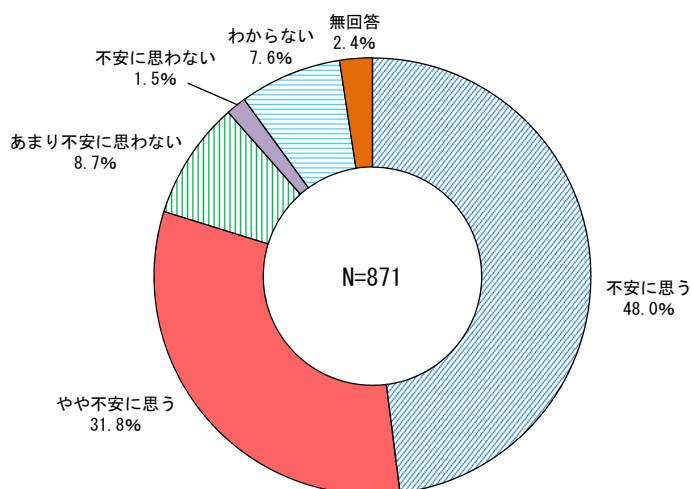
「購入しない」については、1～5年未満(61.1%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(55.0%)となっている。「他に代替品がなければ購入する」については、20年以上(34.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(33.0%)となっている。

①購入しない ②他に代替品がなければ購入する ③他の品より安ければ購入する
④気にせず購入する ⑤その他 ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 あなたは、遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「不安に思う」(48.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「やや不安に思う」(31.8%)、「あまり不安に思わない」(8.7%)の順となっている。

【圏域別】

「不安に思う」については、釧路・根室圏(56.3%)が最も割合が高く、次いで道北圏(49.4%)となっている。「やや不安に思う」については、十勝圏(38.6%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(35.9%)となっている。

【人口規模別】

「不安に思う」については、札幌市(52.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(51.4%)となっている。「やや不安に思う」については、町村部(40.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(33.8%)となっている。

【性別】

「不安に思う」については、男性43.5%、女性53.4%となっており、「やや不安に思う」については、男性32.6%、女性30.4%となっている。

【年代別】

「不安に思う」については、60～69歳(55.5%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(53.4%)となっている。「やや不安に思う」については、70歳以上(40.0%)が最も割合が高く、30～39歳(34.7%)となっている。

【職種別】

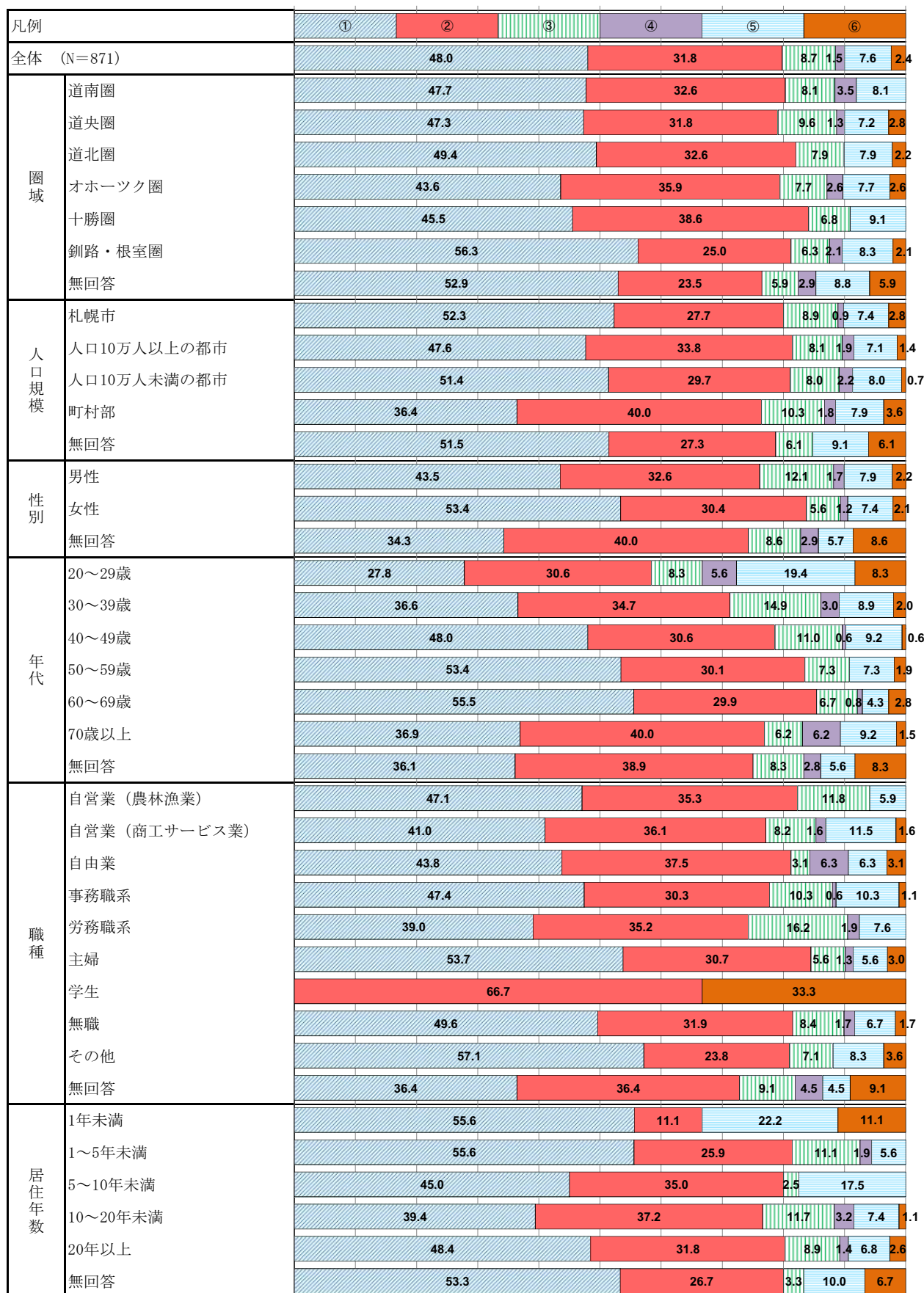
「不安に思う」については、その他(57.1%)が最も割合が高く、次いで主婦(53.7%)となっている。「やや不安に思う」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで自由業(37.5%)となっている。

【居住年数別】

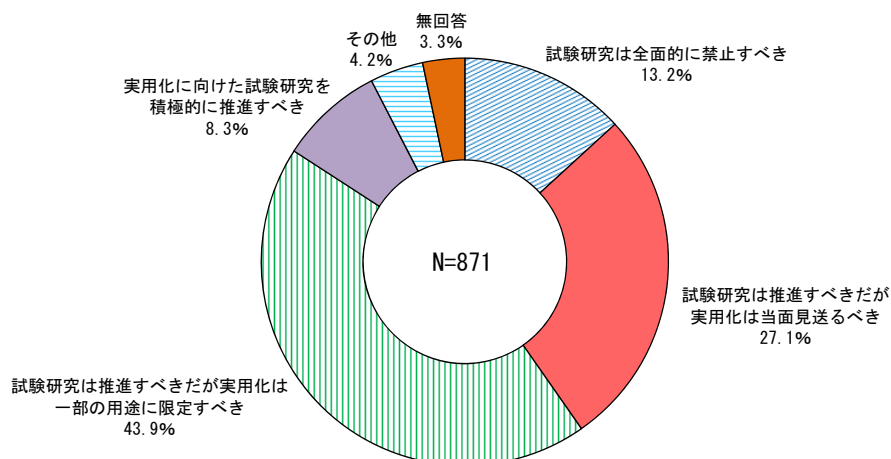
「不安に思う」については、1年未満(55.6%)と1～5年未満(55.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(48.4%)となっている。「やや不安に思う」については、10～20年未満(37.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(35.0%)となっている。

①不安に思う ②やや不安に思う ③あまり不安に思わない ④不安に思わない
 ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問4 あなたは、遺伝子組換え技術の試験研究について、どのように思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」(43.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」(27.1%)、「試験研究は全面的に禁止すべき」(13.2%)の順となっている。

【圏域別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、十勝圏(50.0%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(47.9%)となっている。「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、オホーツク圏(38.5%)が最も割合が高く、次いで道南圏(30.2%)となっている。

【人口規模別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、町村部(49.1%)が最も割合が高く、次いで札幌市(48.3%)となっている。「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、人口10万人以上の都市(31.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(29.7%)となっている。

【性別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、男性45.4%、女性42.7%となっており、「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、男性27.2%、女性26.7%となっている。

【年代別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、40～49歳(48.6%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(47.5%)となっている。「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、60～69歳(31.9%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(28.2%)となっている。

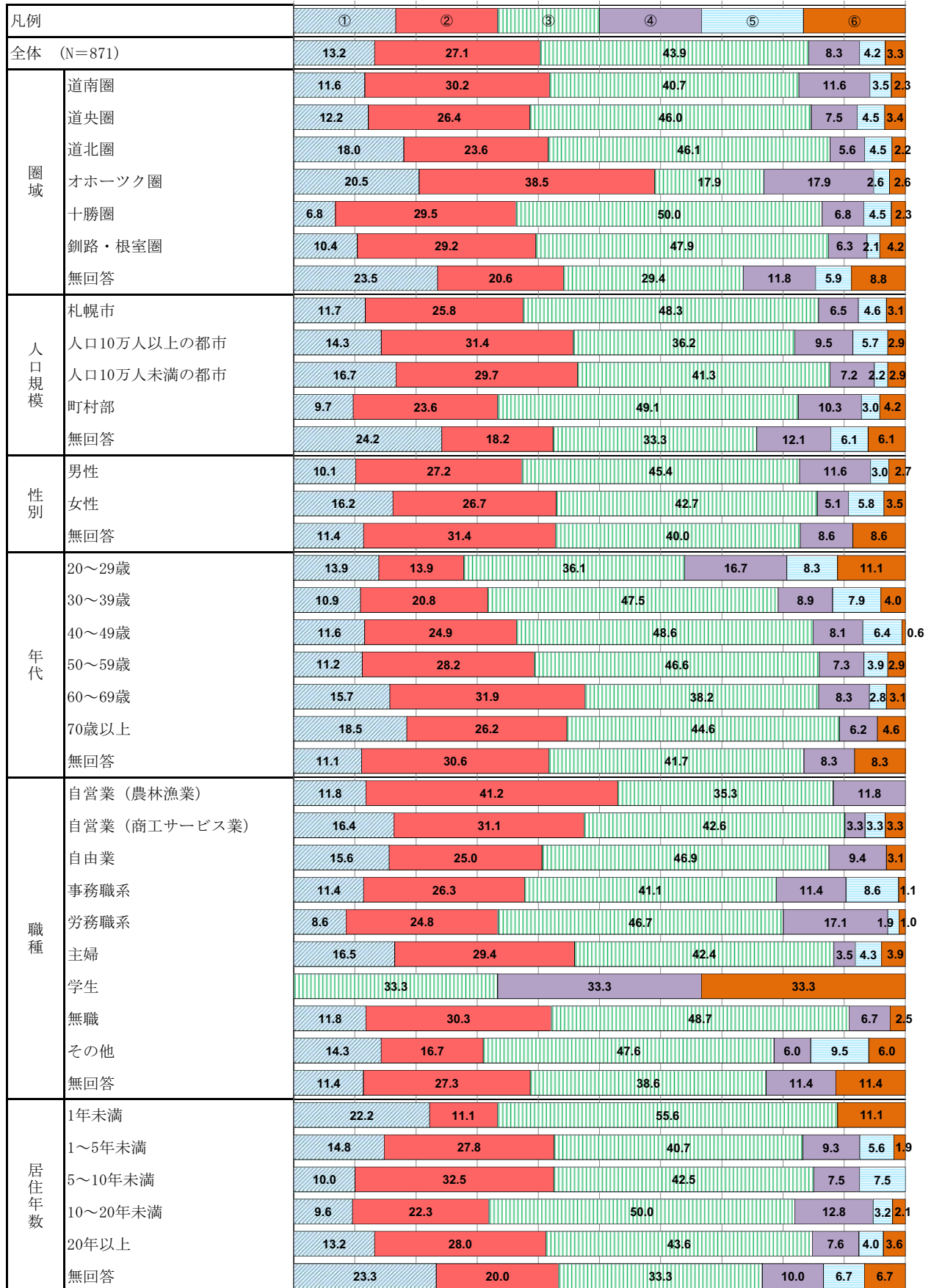
【職種別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、無職(48.7%)が最も割合が高く、次いでその他(47.6%)となっている。「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、自営業(農林漁業)(41.2%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(31.1%)となっている。

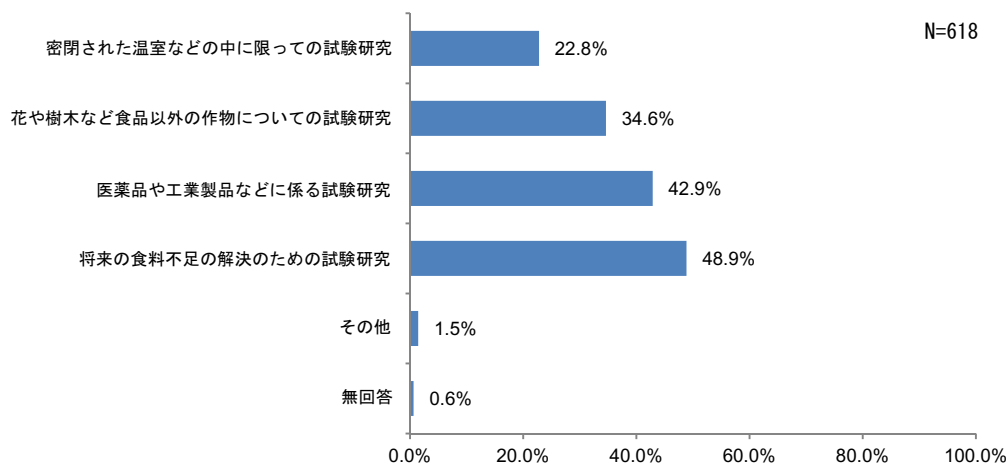
【居住年数別】

「試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき」については、1年未満(55.6%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(50.0%)となっている。「試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき」については、5～10年未満(32.5%)が最も割合が高く、次いで20年以上(28.0%)となっている。

①試験研究は全面的に禁止すべき ②試験研究は推進すべきだが実用化は当面見送るべき
 ③試験研究は推進すべきだが実用化は一部の用途に限定すべき
 ④実用化に向けた試験研究を積極的に推進すべき ⑤その他 ⑥無回答
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問5 ※「問4」で選択肢「2」または「3」を選んだ方のみお答えください。あなたは、遺伝子組換え技術について、どのような試験研究なら行ってもよいと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「将来の食料不足の解決のための試験研究」(48.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「医薬品や工業製品などに係る試験研究」(42.9%)、「花や樹木など食品以外の作物についての試験研究」(34.6%)の順となっている。

【圏域別】

「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、釧路・根室圏(64.9%)が最も割合が高く、次いで道央圏(49.7%)となっている。「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、十勝圏(54.3%)が最も割合が高く、次いでオホーツク圏(45.5%)となっている。

【人口規模別】

「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、町村部(55.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(48.1%)となっている。「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、札幌市(46.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(42.3%)となっている。

【性別】

「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、男性51.7%、女性45.2%となっており、「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、男性44.9%、女性40.1%となっている。

【年代別】

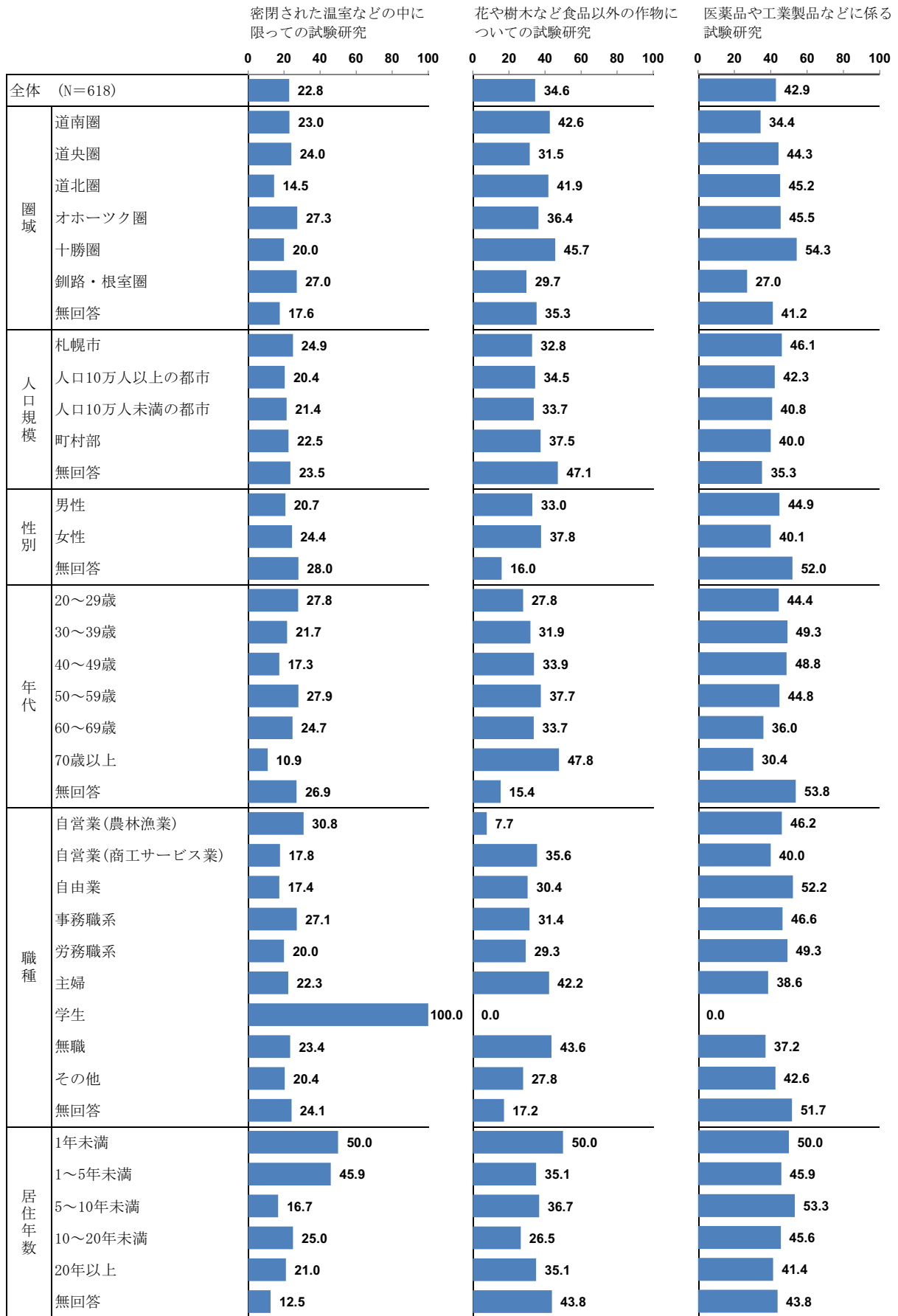
「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、20～29歳(55.6%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(53.5%)となっている。「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、30～39歳(49.3%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(48.8%)となっている。

【職種別】

「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、自由業(60.9%)が最も割合が高く、次いで労務職系(54.7%)となっている。「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、自由業(52.2%)が最も割合が高く、次いで労務職系(49.3%)となっている。

【居住年数別】

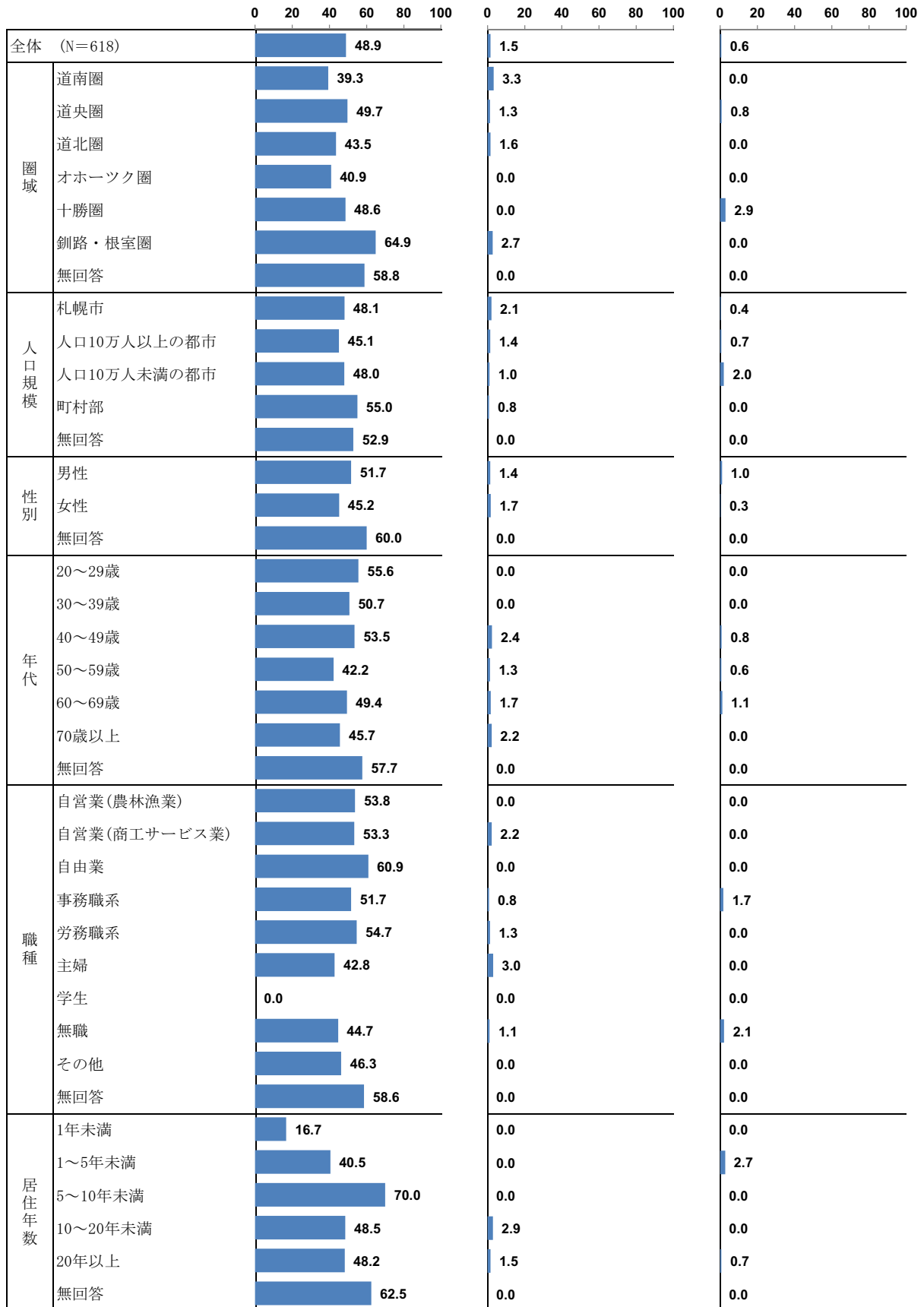
「将来の食料不足の解決のための試験研究」については、5～10年未満(70.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(48.5%)となっている。「医薬品や工業製品などに係る試験研究」については、5～10年未満(53.3%)が最も割合が高く、次いで1年未満(50.0%)となっている。



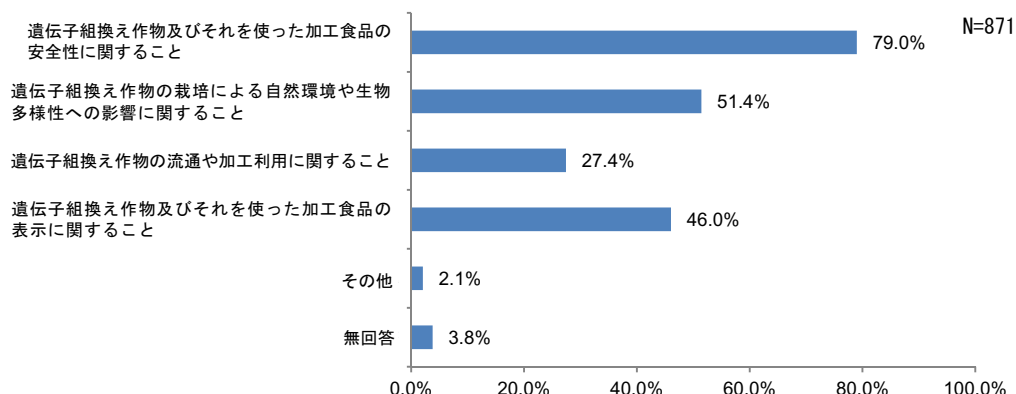
将来の食料不足の解決のための
試験研究

その他

無回答



問6 あなたは、遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品について、どのような情報入手したいと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」(79.0%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」(51.4%)、「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の表示に関すること」(46.0%)の順となっている。

【圏域別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、十勝圏(93.2%)が最も割合が高く、次いで道南圏(82.6%)となっている。「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、オホーツク圏(56.4%)が最も割合が高く、次いで道南圏(54.7%)となっている。

【人口規模別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、人口10万人未満の都市(83.3%)が最も割合が高く、次いで札幌市(80.0%)となっている。「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、札幌市(55.1%)が最も割合が高く、次いで町村部(51.5%)となっている。

【性別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、男性76.5%、女性81.7%となっており、「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、男性52.6%、女性50.8%となっている。

【年代別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、40～49歳(87.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(85.1%)となっている。「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、40～49歳(56.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(53.5%)となっている。

【職種別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、自営業(農林漁業)(88.2%)が最も割合が高く、次いで事務職系(84.6%)となっている。「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(64.7%)となっている。

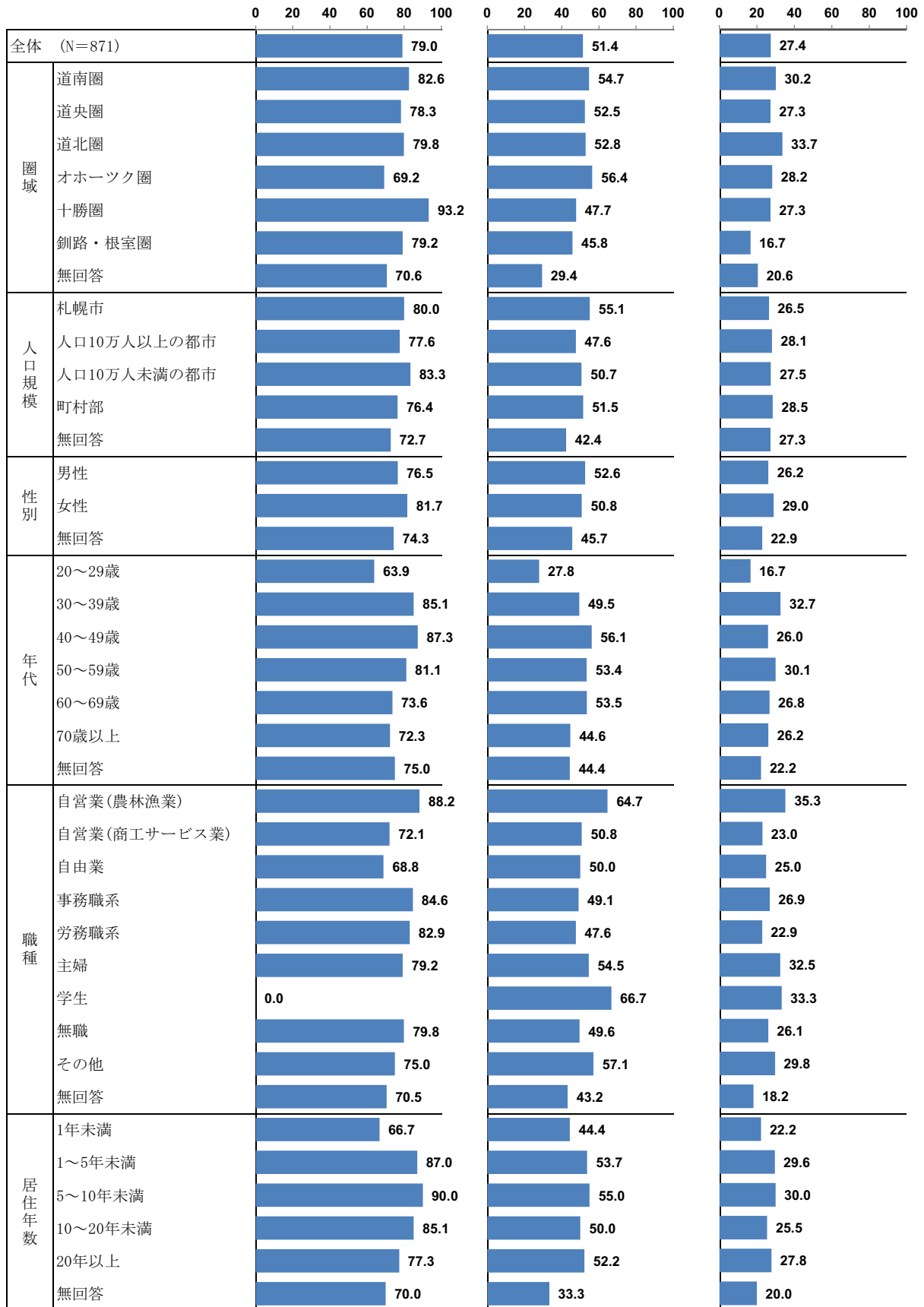
【居住年数別】

「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること」については、5～10年未満(90.0%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(87.0%)となっている。「遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること」については、5～10年未満(55.0%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(53.7%)となっている。

遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性に関すること

遺伝子組換え作物の栽培による自然環境や生物多様性への影響に関すること

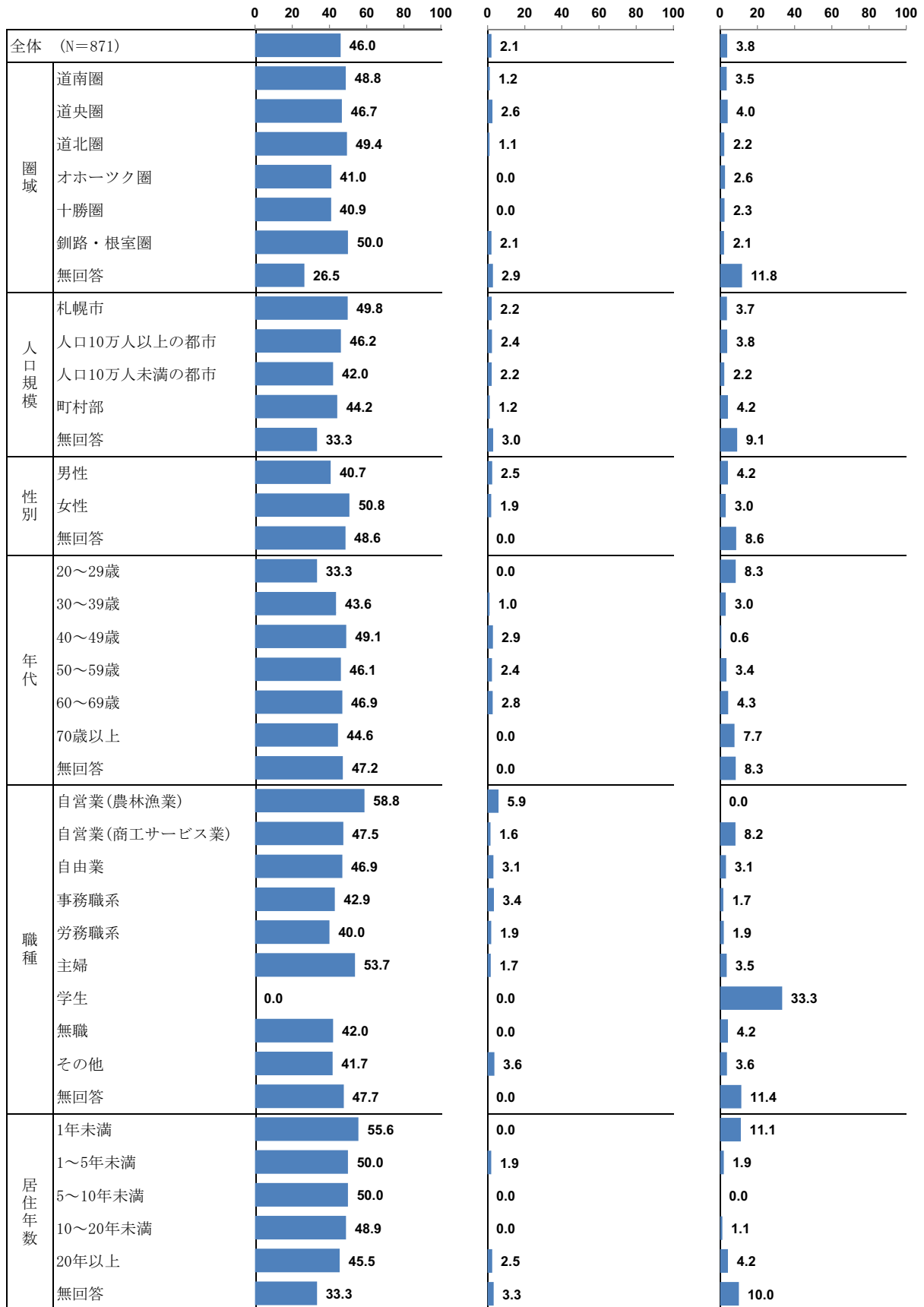
遺伝子組換え作物の流通や加工利用に関すること



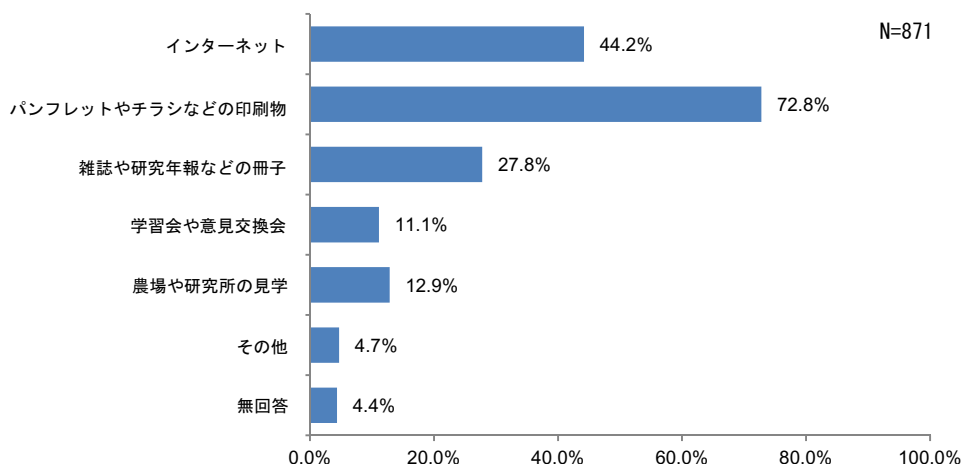
遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の表示に関する
こと

その他

無回答



問7 あなたは、問6で選んだ情報について、どのような手段で入手したいと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「パンフレットやチラシなどの印刷物」(72.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「インターネット」(44.2%)、「雑誌や研究年報などの冊子」(27.8%)の順となっている。

【圏域別】

「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、道南圏(81.4%)が最も割合が高く、次いで十勝圏(77.3%)となっている。「インターネット」については、十勝圏(47.7%)が最も割合が高く、次いで道央圏(46.3%)となっている。

【人口規模別】

「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、町村部(76.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(73.8%)となっている。「インターネット」については、札幌市(48.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(44.3%)となっている。

【性別】

「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、男性70.1%、女性74.7%となっており、「インターネット」については、男性48.6%、女性40.8%となっている。

【年代別】

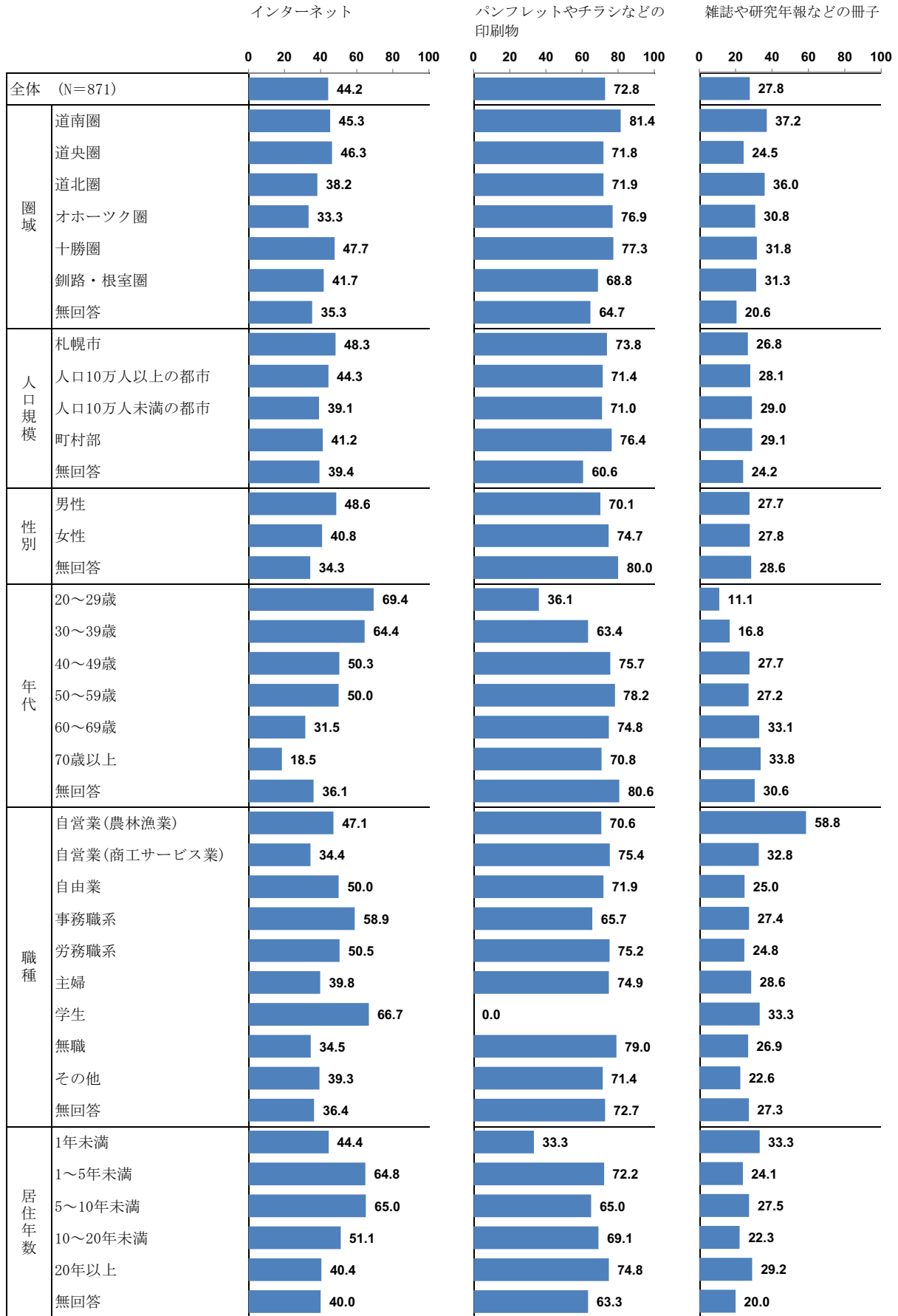
「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、50～59歳(78.2%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(75.7%)となっている。「インターネット」については、20～29歳(69.4%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(64.4%)となっている。

【職種別】

「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、無職(79.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(75.4%)となっている。「インターネット」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで事務職系(58.9%)となっている。

【居住年数別】

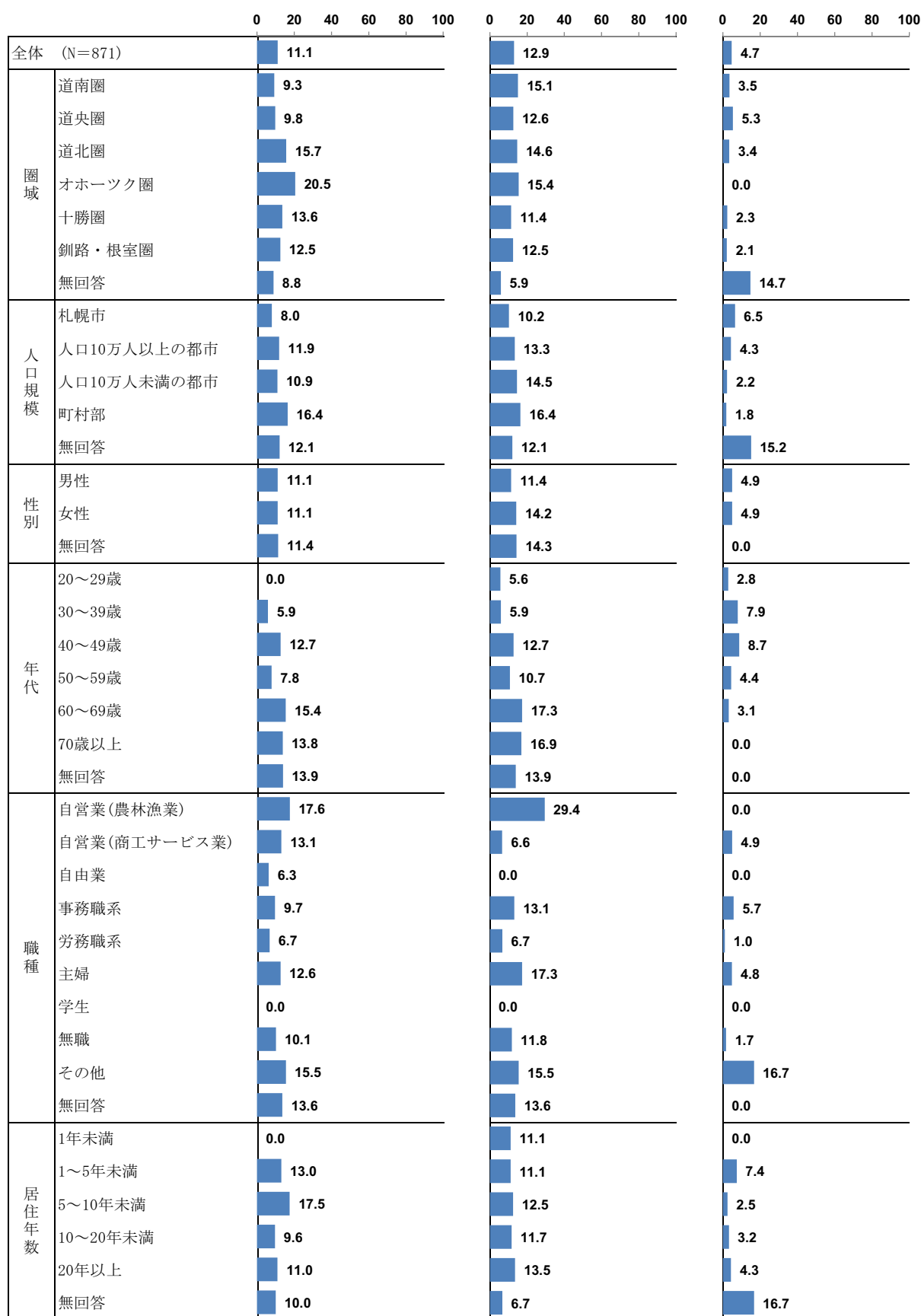
「パンフレットやチラシなどの印刷物」については、20年以上(74.8%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(72.2%)となっている。「インターネット」については、5～10年未満(65.0%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(64.8%)となっている。



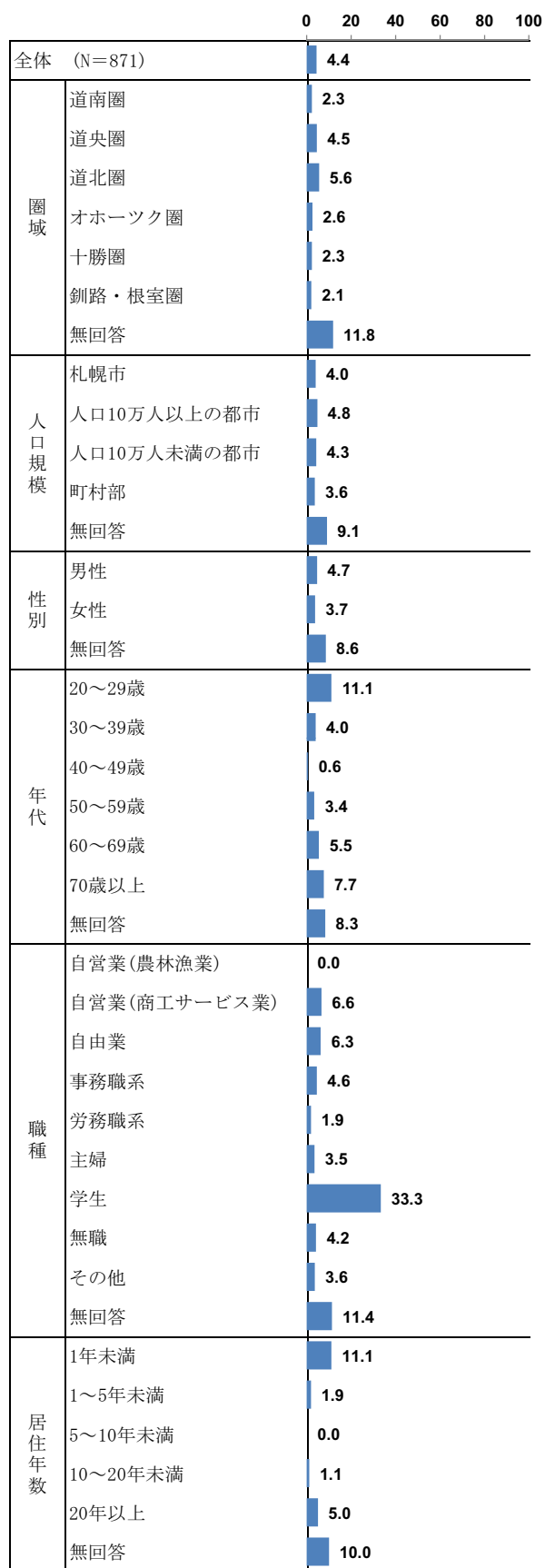
学習会や意見交換会

農場や研究所の見学

その他



無回答



「遺伝子組換え作物等について」の調査を終えて

遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性や遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響については、約8割の人が「不安に思う」または「やや不安に思う」と回答している。

さらに、「遺伝子組換え」と表示されている作物及び加工食品については、「購入しない」が半数を占め、「ほかに代替品がなければ購入する」と合わせると8割を上回る人が購入に対して抵抗があることを示している。

一方、遺伝子組換え技術の試験研究については、「積極的に推進すべき」に、「実用化は当面見送るべき」や「一部の用途に限定すべき」といった一定の条件のもとでの回答と合わせると、約8割の人が「推進すべき」と考えている。

今回の調査結果については、今年度実施する「遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」の点検・検証にあたっての参考にするとともに、意見交換会等で道が提供する情報として活用していく。

(農政部食の安全推進局食品政策課)